

農に生きる

Challenge to My Dreams



新規就農の仲間同士で協力し合う

目ざろえ会で先輩生産者に栽培の相談

富士山麓わくわくコーン生産者

なかむら しょうた
仲村 翔太さん(29)

富士市厚原在住。ミカン生産者のもとで2年半の実践研修を経て、昨年、新規就農。ミカンを60アール栽培するほか、30アールでトウモロコシやサツマイモなどの野菜を栽培。「岩本山産直市」の産直市会員。



統一の栽培基準を徹底し、ブランド価値を守る

「農業」への第一歩

富士市で主にミカンを栽培する仲村さんは昨年8月、2年半の研修を経て28歳で独立就農しました。

「大学を卒業して就職したが、もっと体を使った仕事がしたいと思った。退職後に知り合いのミカン農場でアルバイトをしたことが農業を始めたきっかけ」と語ります。ミカン栽培を通して農業の楽しさを知り、自分で作ったものを多くの人に届けたいという思いが強くなりました。

富士市のブランド作物との出会い

農業を始めてさまざまな生産者と交流するようになった仲村さん。同

市の大人気トウモロコシ「富士山麓わくわくコーン」の栽培に取り組み30〜40代の若手生産者グループに声をかけられ、仲間に加わります。

「富士山麓わくわくコーン」は市内の生産者で統一栽培を行い、ブランド化を進めています。食味向上のためには有機肥料をたっぷり使うことや、糖度維持のために午前中に収穫するなど細かな栽培基準を定め、全生産者が徹底することで高品質生産とブランド価値を守っています。地区によつて砂質土や粘性土など土質に差があるため、それぞれに合わせて施肥量を調整するなど、土づくりに特にこだわっています。

仲村さんは栽培講習会や目ざろえ会に参加し、積極的にベテランの先輩生産者からアドバイスを受けます。仲間との共同の畑で実際に作業をしながら作り方を学び、自分の畑で同じように栽培しています。

「まずは必死に先輩のまねをする。統一基準を守り、防除のタイ

ミングや風で倒れた時の対処などに気を配り、トウモロコシにストレスを与えないように気を付けている」と話します。

苦労はあるが農業は楽しい

「農業は気が抜けない。一日畑を見ただけで虫が発生したり草でいっぱいになったり、失敗することも多い」と話す仲村さんですが「それでも農業は楽しい」と笑顔を見せます。

農業への挑戦は始まったばかり。「良いものをたくさん作って自分の名前でもらえるような生産者になりたい」と力強く目標を語りました。



営農アドバイザーと生育を確認する仲村さん(左)

営農アドバイザーから



ときた ひでき
時田 英樹
 富士地区営農販売課

仲村さんはいつも真面目に栽培に取り組み、チャレンジ精神が旺盛で行動力がある期待の若手生産者です。JAとして生産資材の手配や防除のアドバイス、支援事業の紹介など、栽培と販売の両面でサポートを行い、一緒に富士市の農業を盛り上げていきたいです。



富士山麓わくわくコーン

プチプチとした食感と蜜のような甘さが特長。販売会では毎年大行列ができる富士ブランド認定品です。富士市内の約30軒の農家で栽培しています。土づくりから収穫のタイミングまで統一した厳しい栽培基準により、全生産者が高品質なものを出荷しています。